

第 37 章

ヒラマン 10 - 12 章

はじめに

神から完全な信頼を受けることは大きな名誉である。『信仰に関する講話』(Lectures on Faith) は人が信仰を持つためには、神から承認されているという自覚が必要であると教えている。「自分の進む人生行路が神の御心に添ったものであると心から知ることは、だれにとっても欠かすことができない。そのような知識があれば、神を信頼することができるし、そのような確信がなければ、だれも永遠の命を得ることができないからである。」([1985 年], 7)

神からの信頼と承認は神の戒めをすべて守ることによってもたらされる。ヒラマン 10 - 12 章は、御霊の促しに耳を傾けることがどれほど大切かを強調している。そのようにして初めて、わたしたちは自分が神の御心に従って生活しているということを確信できる。これらの章は神の望みと自分の望みを一致させることがどれほど大切かも強調している。主はニーファイが「〔神の〕思いに反することを求めない」ことを御存じであった(ヒラマン 10:5)。小さいことに忠実であると証明したときに、主はわたしたちを信頼し大きなことをゆだねてくださるのである。

注解

ヒラマン 10:1 - 3 深く考える

• 深く考えるとはどういうことか、次のように定義されている。「聖句や神にかかわる事柄について、しばしば瞑想し、十分に思い巡らすこと。これが祈りと結びついたときに、啓示が与えられたり、理解の目が開かれたりすることがある。」(『聖句ガイド』「深く考える」の項) ニーファイや他の預言者も、深く考えているときに啓示を受けた。十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は次のように教えている。「すべての人が熟考し、瞑想する時間を取るなら、必ずや祝福を享受できることでしょう。静かに内省するときに、御霊は多くのことを教えてくれるのです。」(『聖徒の道』1996 年 1 月号, 5)

• 十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、深く考えたいときには静かな場所へ行く方が良いと提案している。「定期的に平安で静かな場所へ行き、そこで深く考え、人生の指針を主から受けてください。」(『リアホナ』2001 年 7 月号, 9)

• 十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は、深く考

えることからもたらされる祝福について紹介している。「皆さんが教義の原則について深く考えて祈るとき、聖霊は皆さんの思いと心に告げてくださるでしょう(教義と聖約 8:2 参照)。聖文に描かれている出来事から、新たな洞察がもたらされ、自分の状況に関連した原則があなたの心にしみ込むでしょう。」(『リアホナ』2001 年 1 月号, 21)

ヒラマン 10:4 - 5 「あなたはわたしの思いに反することを求めない」

• ニーファイのように、「御霊の内^{みたま}にあって」(ヒラマン 10:17)、また神の御心^{みこころ}に従って求めることができるようになれば、すべてはわたしたちが求める「とおりに行われる」(教義と聖約 46:30; 50:29 - 30 参照)。大管長会のマリオン・G・ロムニー管長(1897 - 1988 年)は、正しい願いに不可欠な幾つかの側面について次のように語っている。

「特定の個人的な事柄についてイエスの御名^{みな}によって御父に祈るとき、わたしたちは心の底から、喜んで自分たちの願いを天の御父の御心に従わせたいと感じるべきです。……

いつの日か、わたしたちは求める前から神の御心を知ることができるようになります。そうすると、わたしたちは『当を得た』ことしか祈り求めなくなります。『正しい』ことしか求めなくなるのです。そのときにこそ、わたしたちは義になった生活の結果として、いつでも御霊の導きを受けられるようになり、御霊の導きに添ったことのみを求めるようになるのです。」(Conference Report, 1944 年 10 月, 55 - 56 に引用)

ロムニー管長は、主からニーファイと同様の約束を受けた経験があります。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、そのことについて次のように語っています。

「1967 年、イダ・ロムニー姉妹は重度の脳卒中にかかりました。出血のために深刻な損傷を受けているとロムニー長老(当時)は医者から告げられました。人工的な手段を使った延命措置についての話はありましたが、積極的には勧められませんでした。家族是最悪の事態を覚悟しました。ロムニー兄弟は、苦悩の中にあっても、個人としてはイダにぜひ良くなってほしい、しかし、いちばんの望みは主の御心が行われ、主が連れて行く必要のある人を連れて行かれること、そうなったとしても、つぶやかないことだどごく親しい人たちに打ち明けました。

日がたつにつれて、ロムニー姉妹の反応は薄れてゆきました。もちろん祝福は施しましたが、ロムニー長老はイダ姉妹の件について主に助言をする気にはなれませんでした。以前、二人の間に子供を授かるよう祈ってもかなえられなかった経験があったので、主の御心と調和しないことについて祈



り求めることは決してできないと分かっていたからです。自分には信仰があり、日々の生活で神の御心を受け入れる覚悟があることをどうやって主に示せばいいのかを知りたいと思い断食をしました。自分ではできる最善を尽くしたということを確認したかったのです。しかし、イダ姉妹の容態が快方に向かう兆しはありませんでした。

ある夜のこと、ロムニー長老は、イダ姉妹が話すことはおろか自分が夫であると認識することすらできないので、かなり落ち込んでいました。ロムニー兄弟は帰宅し、主と霊的な交流を図るため、いつものように聖典を開きました。モルモン書を取り、昨晚読み終わったところから読み始めました。それまでヒラマン書から預言者ニーファイについて読んでいました。ニーファイはぬれ衣を着せられ、不当にも扇動の罪で訴えられました。訴えた者たちから奇跡的に解放された後、ニーファイは自分の経験について深く考えながら帰途に就きました。そのような中で、ニーファイは一つの声聞いたのです。

以前に幾度となく読んだ話でしたが、その日の夜は違いました。マリオン・ロムニー兄弟は、同じ話から個人的な啓示を受けたのです。聖文の言葉に深い感銘を覚え、何週間ぶりで、実感として感じられる平安な思いが心に満ちてきました。まるで主が直接語りかけておられるようでした。聖文にはこう書かれていました。『……あなたはこれまで行ってきたことのために幸いである。……あなたは……自分の命を得ようとせず、わたしの思いを求め、わたしの戒めを守ろうとしてきた。さて、あなたがこのように根気よくこのことを行ってきたので、見よ、わたしはとこしえにあなたを祝福しよう。また、わたしはあなたを言葉にも行いにも、信仰にも働きにも、力のある者にしよう。あなたはわたしの思いに反することを求めないので、まことに、すべてのことがあなたの言葉のとおりに行われるであろう。』（ヒラマン 10：4－5）

そこに答えがありました。ロムニー兄弟が主の御心を知り、主の御心に従うことだけを求めてきたからこそ、主は語られたのです。ロムニー兄弟は、ひざまずき、心の思いをすべて注ぎ出し、次の言葉で祈りを閉じました。『あなた様の御心がなされますように。』そのとき次のように語る一つの声が聞こえたように感じました。いや、実際に聞こえました。『イダが癒されることは、わたしの思いに反しない。』

ロムニー兄弟は、すぐに立ち上がりました。時刻は午前 2 時を過ぎていましたが、何をしなければならないか分かっていた。急いでネクタイを締め上着を着ました。そして真っ暗な中を出かけて行きました。病院へイダに会いに行くためです。病院に到着したときには、3 時近くになっていました。妻の症状に変わりはありませんでした。青白い額に



手を置かれても、イダ姉妹は微動だにしませんでした。しかし、ロムニー兄弟は一点の曇りもない信仰を振るい、妻のために神権の力を行使しました。ロムニー兄弟は、簡潔な祝福を宣言すると、信じられないような約束を口にした

のです。それはイダ姉妹が肉体の健康と精神的な力を回復し、さらにはこの地上における『偉大な使命』を果たすであろうという約束でした。

ロムニー長老に疑いはありませんでしたが、それでも祈り終え、イダ姉妹の目が開くのを目の当たりにしたときには仰天しました。そのとき起こったことに少しあ然としながらも、ロムニー兄弟はベッドの端に座り、何か月ぶりで妻のか細い声を聞きました。彼女はこう言いました。『まあ、マリオン、どうしたの。こんな所で何をしているの。』この言葉に笑ったらいいのか泣いたらいいのか分かりませんでした。ロムニー兄弟はこう言いました。『イダ、元気かい。』そのような一瞬のユーモアは二人にとってお手の物でした。イダ姉妹はこう答えました。『たとえようもないくらい、最高よ。』

イダ・ロムニーは、まさにその瞬間から、快復し始め、やがて退院し、夫が大管長会の一員として、文字どおり『この地上における偉大な使命』に召される姿を生きて目にしたのです（F・バートン・ハワード、*Marion G. Romney: His Life and Faith* [ソルトレーク・シティー：Bookcraft, 1988 年], 137－142）。』（ジェフリー・R・ホランドおよびパトリシア・T・ホランド、*On Earth As It Is in Heaven* [1989 年], 133－135）

ヒラマン 10：4－5

これら二つの節から、ニーファイはどのような特質があったのでそのような祝福を受けられたと思うか。

ヒラマン 10：7 結び固めの力

・ニーファイはとても勤勉に働いたので、主から大きな祝福を授かった。人と自然を制する力が与えられたのである。また、神聖な結び固めの力、預言者エリヤが持っていた力と同じ力も授けられた。「エリヤが持っていた力は、神権の結び固めの力であり、これによって地上でつながれ、解かれることは、天においてもつながれ、解かれるのである（教義



© 1985 ロバート・ハレット

128:8-18)。(『聖句ガイド』『エリヤ』の項)

・ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876 - 1972 年）は、様々な預言者に与えられた結び固めの力について教えた。

「主は選ばれた僕らのうち何人かに権能を授け、特別な力を与えられた。……このようにしてエリヤは使者をよみがえらせ、病人を癒し、自らの言葉によってのみ雨が降らず、それが3年以上にわたって続くように天を閉じるといった神権の力の鍵を得た。さらに天から火を招き教会の敵を滅ぼす力も持っていた。……」

主は同じような権能をニーファイやヒラマンの息子に与えられた。彼らも、自らの信仰と主の命令によってのみ天を閉じ、偉大な業を行う権能を持っていた〔ヒラマン 10:7 参照〕。このすばらしい力を授かったのは主の僕らのうちの数人に限られた。』（*Answers to Gospel Questions*, ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編, 全 5 巻〔1957 - 1966 年〕, 第 4 巻, 95）

ヒラマン 10:13 - 15 「あの大きな奇跡があったにもかかわらず」

・預言者ジョセフ・スミス（1805 - 1844 年）は「奇跡は信仰の実である」と教えている（*History of the Church*, 第 5 巻, 355）。奇跡を通して信仰を見いだそうとする人がいる。しかし、それは天の秩序に反する。信仰が奇跡に先駆けるのであり、奇跡が信仰に先駆けるのではない。ニーファイが大判事の殺害者をセアナムだと突き止めたのは、この預言者の信仰の結果もたらされた奇跡だった。悲しいことに、この奇跡を目の当たりにした人々の大半は不信仰な生活を送っていた。したがって、この奇跡があったにもかかわらず

らず、人々は改宗しなかった。なぜなら、「信仰はしるし〔あるいは奇跡〕によっては生じないが、信じる者にはしるしが伴う」からである（教義と聖約 63:9）。彼らの生活が変化するためには、まず「悔い改めを生じる信仰」が必要だった（アルマ 34:15 - 17）。残念ながら、大きな奇跡を目の当たりにした人々は、心をかたくなにし続け、悔い改める代わりに、ニーファイを迫害した。

ヒラマン 11:1 - 16 民のために祈る預言者

・ニーファイが民のためにささげた祈りから、預言者が民をどれほど気にかけているかよく分かる。預言者は、神の代理人として民に語りかけるだけでなく、時折、民のために執り成しをしようとすることがある。毒蛇に苦しめられたイスラエルの子供たちは、モーセのもとに来て次のように嘆願した。『「どうぞへびをわたしたちから取り去られるように主に祈ってください。』モーセは民のために祈った。』（民数 21:7）

アメリカ大陸で、リーハイの息子ニーファイは次のように書いている。「わたしは昼は絶えず民のために祈り、夜は彼らのことを心配して涙で枕をぬらしている。そしてわたしは、信仰をもって神に叫び求めている。」（2 ニーファイ 33:3）

・現代の預言者もわたしたちのために祈り続けている。2001 年 9 月 11 日のテロリストによる悲劇的な事件の後で行われた総大会で、ゴードン・B・シンクレイ大管長（1910 - 2008 年）は、こう祈っている。

「永遠の父なる神よ、……わたしたちはあなたの子供であり、この暗い厳粛な時に当たり、信仰をもってあなたに心を向けています。愛する御父よ、どうかわたしたちが信仰を持てるように祝福してください。愛を持てるように、心の中に慈愛を持てるように祝福してください。この世にある恐ろしい悪を根絶するため、不屈の精神を持てるように祝福してください。現在戦いに従事している人々に保護と導きをお与えください。彼らを祝福し、命を守り、危害と悪から救ってください。彼らの愛する者たちの安全を求める祈りをお聞きください。……」

御父よ、助けを必要とするこの時期にあって、わたしたち自身の国家とその友を憐れみの目で御覧ください。わたしたちの命を守り、あなたとあなたの愛される御子を信じる信仰をもって歩めますように助けてください。わたしたちは御子の憐れみに頼り、〔御子を〕わたしたちの主なる救い主としてあがめています。平和の業を祝福し、再び速やかに平和を回復してください。わたしたちはへりくだって請い求めます。どうか、わたしたちの傲慢を赦し、罪を見過ごし、親切と寛大さをもってお計らいくださいますように、またわたした

ちの心がすべて愛をもってあなたに向かうよう導いてくださいますように。わたしたちすべてを愛しておられる御方、すなわち主イエス・キリスト、わたしたちの贖い主、救い主の御名によってへりくだりお祈りします。アーメン。」(『リアホナ』2002 年 1 月号, 105 参照)

ヒラマン 11:4-5 主は、時として、その子らを正すために自然の力を用いられる

• スペンサー・W・キンボール大管長 (1895 - 1985 年) は次のように説明している。「主は時々天候を使って、主の律法を犯したことに對してその民を懲らしめられます。」(『聖徒の道』1977 年 10 月号, 430。教義と聖約 43:21-25 も参照)

ヒラマン 11:18-12:6 義と悪のサイクル

• モルモン書の歴史の中で、民は何度か正義、繁栄、富、高慢、罪惡、破滅、謙遜、そして正義というサイクルを経験した。詳しい情報、高慢の悪循環を描いた表については、付録から「義と悪のサイクル」の表 (398 ページ) を参照する。

十二使徒定員会の L・トム・ペリー長老は、人類が悪循環から抜け出せないことを嘆いている。「この世で最大のなぞの一つは、なぜ人類は歴史から学ぶことができないのかということだと思われます。」(『聖徒の道』1993 年 1 月号, 19) 確かに、主はわたしたちの利益となるように聖文を通して明確な行動の規範を提示し、わたしたちが自分の生活の中で同じ問題を避けられるようにしてくださった (教義と聖約 52:14-19 参照)。

ヒラマン 11:22-23 「教義の要点」

• 十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老 (1915 - 1985 年) は、キリストの真の教義を構成しているものは何かを指摘している。「キリストの真の教義とは、救いを得るためには、あらゆる人がキリストのもとに来て、信仰を得、悔い改め、バプテスマを受け、聖霊を受け、信仰をもって最後まで堪え忍ばなければならないということである (2 ニーファイ 31:17-21; 3 ニーファイ 11:29-41; 教義と聖約 10:67; 68:25)。」(Mormon Doctrine, 第 2 版 [1966 年], 204)

• 十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、真の教義が持つ力について次のように語っている。

「真の教えを理解すれば、人の態度や行動は変わります。

福音の教義を研究することは、人の行動を研究することよりも、ずっと速やかに行動を改善する力があります。……だからこそ、わたしたちは福音の教えを勉強するようにと強く勧めるのです。」(『聖徒の道』1987 年 1 月号, 18-19)



ヒラマン 11:21-38 再び罪惡に陥る

• 預言者ジョセフ・スミスは次のように教えている。「惡魔は神に對抗し、神の王国とまったく同じ時期に自らの王国を打ち立てる。」(History of the Church, 第 6 巻, 364) 惡魔は、救い主の教会が設立されるとき、あるいは、強化されるときにはいつも、神の聖徒に戦いを挑み、何とかして神の教会の発展を妨害しようとする。サタンがどのようなものかは、ヒラマン 11 章を読めば明らかである。ガデアントン強盗団は地から一掃された。義にかなったニーファイ人とレーマン人の教会員は大いなる平和を得た (ヒラマン 11:21 参照)。しかし、何年もたたないうちに、惡魔の影響によって、人々は再び邪惡になり、ガデアントン強盗団はその力と影響力を取り戻した。

ヒラマン 12:1-3 人の心の不安定さ

• 十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老 (1926 - 2004 年) は、人が靈的に不安定なのはなぜなのか、考えられる幾つかの理由について探求している。

「惡気はなくて、ただ単に忘れっぽいだけなのでしょうか。あるいは、過去の祝福を思い起こしたり認めたりしないために、知性の働きが不完全なせいでしょうか。あるいはまた、『主を覚える』ようにとわたしたちを招く穏やかでかすかなしるしを見過ごしてしまうために、柔和さを欠き、その結果、そうした嚴しい教訓を繰り返し学ぶ必要が生じるのでしょうか。……

……日々主を覚えるためには、日々御霊が必要で、御霊がなければ、惡魔の誘惑を最も受けやすいときに主を思い起こすことができません。肉欲に従う人は、特に、目先の物質的な必要に絶えず迫られている場合、過去の祝福を覚えて感謝することが苦手なのです。」(Lord, Increase Our Faith [1994 年], 101-102)

• 大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、わたしたちが不安定な理由について次のような洞察を付け加えています。「祈りがこたえられれば、神に頼る心はすぐさま消えてしまう

のです。そして、問題が少なく、小さなものとなれば、ささげられる祈りも少なく、弱々しいものとなってしまいます。モルモン書には、そのような悲しい物語が幾度も繰り返して登場します。』（『リアホナ』2002年1月号, 16）

ヒラマン 12:1-9

これらの聖句によれば、思い起こすかどうかは、高慢の悪循環を避けるのにどのような役割を果たすか。

ヒラマン 12:2 神がその民を栄えさせられるとき、民は神を忘れる

• エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994 年）は、繁栄に伴う困難な問題について次のように語っている。「わたしたちが繁栄のときに受ける試練は、最も大きな試練のように思われます。なぜなら、ほかの試練よりも捕らえ難く、巧妙だからです。それほど脅威的には見えず、正体も見抜きにくいのです。義にかなっているかどうかを試される試練はどれも苦しみが伴います。しかし、この繁栄という特別な試練は、試練とはほど遠いもののように見えます。苦しみがありませんので、あるゆる試練の中で最も惑わされやすい試練と言えます。平和と繁栄が民に何をするか分かりますか。民を霊的に眠らせるのです。」（ラリー・E・ダール, “Fit for the Kingdom,” *Studies in Scripture, Volume Five: The Gospels*, ケント・P・ジャクソンおよびロバート・L・ミレット編 [1986 年], 第 5 巻, 369 で引用）

• ハロルド・B・リー大管長（1899 - 1973 年）は、「ぜいたく」の試練と人生で経験するほかの試練を比較している。「わたしたちは試されます。恐らくわたしたちは自分が経験している試練の厳しさを理解していないでしょう。初期の教会には、殺人を犯したり、暴徒化したりする人々がいました。聖徒たちは砂漠へ追いやられました。彼らは飢え、着る物もなく、寒さを経験しました。わたしたちは彼らがわたしたちに与えてくれたものを受け継いでいます。しかし、そのような受け継ぎを使って何をしているのでしょうか。今日、わたしたちは世界の歴史でこれまでに一度も目にしたことのないようなぜいたくに浸って生活しています。恐らく、これまでの教会の歴史で一度も経験したことがないような厳しい試練と呼べるかもしれません。」（ダール, “Fit for the Kingdom,” *Studies in Scripture*, 第 5 巻, 369 で引用）

ヒラマン 12:4 「俗世のむなしいものに執着する」

• モルモンは俗世のむなしいもの、中身の無いもの、価値の

ないものに執着する人の愚かさを強調している。十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老はこう述べている。「『俗世のむなしいもの』の中には、財産、優越感、名声、権力といった、この世的な 4 つの属性が含まれています。そのすべてについて、聖文は、このように告げています。『あなたはそれらのものを携えて行くことはできない……。』（アルマ 39:14）わたしたちは、聖文が忠実な者に約束している宝、すなわち『知識の大いなる宝、すなわち隠された宝』を求めるべきなのです（教義と聖約 89:19）。』（『リアホナ』2001年7月号, 101）

ヒラマン 12:5-6 「高慢になるのが早い」

• 高慢についての特筆すべき説教で、エズラ・タフト・ベンソン大管長は、高慢に含まれる様々な側面について明らかにしている。

「高慢は本質的に闘争的な性質を持っています。わたしたちは、自分の思いを押し通して、神の御心に刃向かうことがあります。自分の高慢な心を神に向けるのは、『御心ではなく自分の思いが成るように』と言っているのも同じことです。……

高慢な人は、自分の生活を律する神の権能を認めることができません（ヒラマン 12:6 参照）。自分なりに真理を解釈して、神の偉大な真理に挑むのです。また、自分の能力をもって神権の力に対抗したり、自分の功業を挙げて偉大な神の御業に対抗したりするのです。

……高慢な人は、神に対して、自分の考えに同意するように求めます。神の御心に合わせて、自分の考えを変えるなどということは念頭にありません。……

高慢の行き着く結果として、権力と『利益と世の誉れ』を求めて作られた秘密結社を挙げることができます（ヒラマン 7:5；エテル 8:9, 16, 22 - 23；モーセ 5:31 参照）。高慢の罪の実である秘密結社は、ヤレド人とニーファイ人の文明を崩壊させました。そしてほかにも多くの国の墮落の原因となり、それは今後も続いていくことでしょう（エテル 8:18 - 25 参照）。』（『聖徒の道』1989年7月号, 4 - 6 参照）

• 七十人のジョー・J・クリステンセン長老は、高慢は不正な比較を生む、また破綻につながることもあると教えている。

「高慢だと、自分を他人と比較するため、度を超えて心配するようになります。例えば、自分の知的レベルはどれくらいか、自分が身に着けるジーンズあるいはその他の衣料品、『高価な衣服』のブランドは何か、どの組織に属しているか、町のどちら側に住んでいるか、お金は幾ら持っているか、人種は何かあるいは国籍はどこか、どんな車を持っているか、

さらにはどこの教会に属しているか、どれくらいの教育を受けの特権にあずかったかなど際限なく心配するようになるのです。

聖文の中には、高慢が増大した結果、個人、国家、そしてある場合には、教会そのものが滅びることになったという記載が随所にあります。……計算すると、繁栄と平和のサイクルは、モルモン書を通じて少なくとも 30 回、人の高慢が原因で断ち切られているのです。」(One Step at a Time: Building a Better Marriage, Family, and You [1996 年], 138 - 139) (付録 398 ページの表「義と悪のサイクル」を参照)

ヒラマン 12:7 - 19 人の無力

・ジョセフ・フィールドینگ・スミス大管長の次の言葉は、「人の子らは……無力」(ヒラマン 12:7) という表現が人間の価値を表したものではないということを理解するのに役立つ。「この預言者が言いたかったのは、主は御自身の子よりも地のちりに対してより多くの関心と愛を抱いているということではありません。……ここで強調されているのは、地のちりは従順であるということです。主が命じられると地のちりはあちらこちらに移動します。あらゆるものが主の法則と調和しています。わたしたちの知るかぎり、宇宙の万物は与えられた法則に従います。しかし、人間は違います。どこに目をやっても法則や秩序を見いだすことができ、あらゆる要素が与えられた律法に従い、与えられた責任を忠実に果たします。しかし、人間は逆らいます。この点において、人間は地のちりよりも劣っているのです。主の助言を受け入れないからです。」(Conference Report, 1929 年 4 月, 55 で引用)

ヒラマン 12:15 天文学の知識

・ヒラマン 12:14 - 15 から、モルモンは宇宙の物理的な法則を理解していたことが分かる。「ここで述べられているのは、ヨシュアが太陽や月に動かないようにと命令し、その結果、アモリ人の軍がイスラエルの軍に大敗を喫したことを示す聖書の記録です(ヨシュア 10:12 - 14)。ここでは太陽が静止している地球の周りを回っていると想定する聖書の記録に修正が加えられています(イザヤ 38:7 - 8; 列王下 20:8 - 11 も参照)。これらの聖文は、預言者であり編集者であったモルモンが、古代の多くの霊的指導者と同様、神、人類、そして宇宙について実に深い知識を持っていたという深遠ながらも明白な確信を与えてくれます。」(ジョセフ・フィールドینگ・マッコンキーおよびロバート・L・ミレット, *Doctrinal Commentary on the Book of Mormon*, 全 4 巻 [1987 - 1991 年], 第 3 巻, 397)



ヒラマン 12:23 - 24 悔い改めることによってキリストの恵みにあずかる

・十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、神の恵みの力について次のように詳しく述べている。

「英語の『聖書辞典』(Bible Dictionary)によると、聖文の中で頻繁に用いられている『恵み』という言葉には、基本的に『人を強める力、能力を授ける力』という意味があります。

『恵みとは、イエス・キリストのあふれる^{あわ}憐れみと愛によって人に授けられる、様々な形の天からの助けと能力を意味する。

……主の恵みを通して、人はイエス・キリストの贖罪^{しよくざい}に対する信仰を持ち自らの罪を悔い改めるなら、自分の力だけでは達成不可能な善行でさえ達成することができる。このような恵みを通して、男性も女性も、全力を尽くした後に永遠の命と昇栄を獲得することができるのである。』(697)

つまりわたしたちは、人に能力を授け、強める贖罪の力を通して、死すべき人間としての限られた能力では到達することも達成することもできない方法で、理解し行動することができ、さらに善良になることができるのです。救い主の贖罪^{あかし}には、実際に人に能力を授ける力があることを証します。」(『リアホナ』2004 年 11 月号参照, 76 で引用。教義と聖約 93:20, 27 - 28 も参照)

・七十人のジーン・R・クック長老は、個人に向けられる救い主の恵みについて次のように論じている。

「贖罪を通して与えられる主の恵みは、わたしたちの罪を清めるとともに、試練や病氣、さらには性格上の弱点を克服することを通して、わたしたちが完全な者となるように助けてくれます。……わたしたちの欠点や弱点を直すことができる御方はキリストをおいてほかにおられない[のです。](創世

18：14；マルコ 9：23 - 24 参照)

わたしたちの生活に恵みの効果が及ぶのは、わたしたちが罪を悔い改めるかどうかにかかっています。それをしっかりと心に留めているかぎり、この大いなる真理はわたしたちの心に希望を満たしてくれるはずです。……

悔い改めの心と善い行いは恵みを頂くためになくてはならない条件です。人が熱心に答えを祈り求めるとき、その答えが与えられるかどうかは、個人的な罪を悔い改めることがほかの何よりも重要な要因になる場合があります（教義と聖約 101：7 - 8；モーサヤ 11：23 - 24 参照）。

恵みを得るためには、完全である必要はありませんが、戒めを守るためにできる限りの努力をする必要があります。そうすれば、主はその力を授けてくださるのです。」（『聖徒の道』1993 年 7 月号, 83）

理解を深めるために

- 日々の生活で高慢の悪循環を避けるために、どのような手段を講じているだろうか。
- 日々の生活でどのような機会に神権の力が働くのを目にしたことがあるだろうか。
- どうすれば主の御心^{みこころ}に反することを求めないような祈りができるようになるだろうか。

割り当ての提案

- 主はどのように、また、なぜ御自身の子供たちを訓練されるのだろうか。この点についてヒラマン 12 - 14 章で学んだことを家庭の夕べで分かち合う。
- 日々の生活で高慢の悪循環にどう対処しているか日記に書く。